

II．経営成績

1．平成11年9月期の概況

(1) 業績全般に関する分析

平成11年9月期の連結経常収益は、13,367億円となり、連結経常費用は11,921億円となりました。その結果、連結経常利益は、1,446億円、特別損益等を勘案した税引後の連結中間純利益は、535億円となりました。

以下、経営成績の大部分を占める銀行単体の業績について説明いたします。

平成11年9月期の経常収益は、前中間期比12.8%減の9,081億円となり、経常費用は前中間期比16.5%減の8,173億円となりました。その結果、経常利益は、908億円（前中間期比45.4%増）、特別損益等を勘案した税引後の中間純利益は、415億円（前中間期比23.0%減）となりました。

経常利益の内訳であります業務純益は、一般貸倒引当金の繰入を除いたベースで前中間期比384億円減益の2,050億円となりました。これは、債券売買損益の減少から債券損益が前中間期比563億円減少したことを主因に、業務粗利益が554億円の減益となった一方、経費の削減により170億円の増益となったことによるものです。

その他のうち、一般貸倒引当金繰入額を含む貸倒償却等費用は、貸出金償却、個別貸倒引当金繰入を中心として、合計で1,823億円（前中間期比402億円の増加）の処理を行いました。また、株式関係損益は、864億円となりました。これは、96億円の株式償却損を計上する一方で、株式売却損益が960億円となったことによるものです。特別損益につきましては、動産不動産処分損益が38億円の損失となりました。また、年金債務に関連して、厚生年金基金への追加拠出による215億円を特別損失としております。

(2) キャッシュ・フローの状況

平成11年9月中間期のキャッシュフローにつきましては、資金の運用・調達や貸出金・預金の増減等の営業活動によるものが20,946億円、有価証券の取得・売却や動産不動産の取得・売却等の投資活動によるものが22,531億円、劣後特約付借入金・社債の増加・減少等の財務活動によるものが1,052億円となり、現金及び現金同等物の中間期末残高は8,692億円となりました。

2. 平成12年3月期の見通し

(1) 業績全般に関する見通し

平成12年3月期につきましては、内外にわたる資金の効率的運用・調達、資材調達の見直し等経費圧縮を含めた経営全般の合理化の推進等に努め、収益力の強化を図る一方、不良債権に対する償却・引当の積み増しによる財務体質の健全化に引き続き注力してまいります。通期の見通しといたしましては、連結経常収益26,000億円、連結経常利益2,300億円、連結当期純利益950億円を予想しております。

また、銀行単体の業績見通しといたしましては、経常収益18,500億円、経常利益1,800億円、当期純利益800億円を予想しております。

(2) 利益配分に関する見通し

住友銀行の普通株式の配当につきましては、内部留保の水準を勘案し、社外流出を抑制する観点から、前中間期より減配し1株当たり半期3円、年間6円としておりますが、今期も同様に1株当たり半期3円、年間6円とする予定であります。なお、優先株式については所定の配当（第1回優先株式は年10円50銭、第2回優先株式は年28円50銭）といたします。